

見やすさを重視した観光案内マップへの利用

沖縄県糸満市

沖縄県糸満市では、基盤地図情報項目の中から必要な情報を選択し、観光案内マップの背景図として利用している。観光案内マップはFlash形式にしてホームページ上で公開しているが、観光客からの問い合わせが増加したことからも、市の貴重な観光資源をPRすることに一役買っていることがわかる。

利用効果

- 基盤地図情報は、項目単位での利用が可能であり、わかりやすい案内図の作成が容易
- 無償の基盤地図情報を利用することで費用を抑え、高い費用対効果を得ることが可能

沖縄県は、日本の中でも有数の観光地である。糸満市は、沖縄本島の南端に位置し、観光地は多くあるが、リゾート施設やホテルが那覇空港より北側に多いこともあり、南側の市町村では貴重な観光資源をどのように観光客にPRするかが課題であった。

そこで、糸満市では、平成22年に開設した商工観光課ホームページ内で、観光客に対して糸満市の観光スポットをPRすべく、「観光案内マップ」を公開することとなった。観光案内マップの作成にあたり、背景図として都市計画課が保有しているDM形式の都市計画基図を利用することも可能であったが、観光案内の目的のためには、情報量の多さよりも道や地名の視認性が重要であること、基盤地図情報は、必要な情報のみをダウンロードでき、DM形式に精通していない職員でも容易に扱えることから、基盤地図情報を採用した。当時、糸満市では、縮尺レベル2500の基盤地図情報が未整備であったため、縮尺レベル25000の基盤地図情報を利用することとした。

利用した項目は「海岸線」「道路縁」「市町村の町若し

くは字の境界線及び代表点」のみであり、建築物などは使用しなかった。結果として、データ量が軽くなり動画再生がスムーズになったことはもちろんだが、動画を再生した際に道順と必要な地名のみが認識でき、わかりやすい案内図となっている。作成にあたっては、基盤地図情報をペイントソフト用のデータに変換し、案内図としての調製を行った。

観光分野ではインフラ関係部署と異なり予算獲得が難しいという側面がある。無償の基盤地図情報を利用してPR効果を得ることができれば費用対効果は大きいものとなる。

現在、12観光地の観光案内マップが公開されており、利用者の反応として、「沖縄 観光マップ」といった検索ワードでアクセスランキングの上位にランクされたり、Twitterで「糸満市の観光案内図がわかりやすい」といったコメントが寄せられるなど、観光資源のPRという目的が果たされている。今後は、住民や観光客の要望に応じて新たな観光地を追加していく予定である。

データ作成費用においても、背景地図に無償の基盤地図情報を利用し、職員がデータの作成を行ったことで調達費用がかかっていないため、高い費用対効果を得ることができたと言える。

データ作成費用においても、背景地図に無償の基盤地図情報を利用し、職員がデータの作成を行ったことで調達費用がかかっていないため、高い費用対効果を得ることができたと言える。

1 商工観光課のホームページ



糸満市商工観光課ホームページURL:

<http://www.city.itoman.okinawa.jp/section/syoutoku/index.html>

2 観光案内マップの動画キャプチャ



■利用した基盤地図情報の種類と項目

- 【縮尺レベル25000基盤地図情報】
- ・海岸線
 - ・道路縁
 - ・市町村の町若しくは字の境界線及び代表点

北海道十勝の距離、広さを実感できる 観光マップの作成

十勝観光連盟

北海道十勝観光連盟では、十勝を訪れた方に対して、観光スポットを紹介するだけではなく、北海道外から来られた方に、正しい縮尺の背景地図を利用することで、十勝の広さを実感していただくことのできる観光マップを作成した。また、車で移動するときこの観光マップ上のおおよその距離を測ることで、移動時間も容易に推測することができるようになっている。この優れた機能をもつ観光マップの背景地図に基盤地図情報を活用した。

利用効果

● 正確な地図データだから距離、広さがわかる

基盤地図情報は、精度の高い情報なので、距離や面積を高い精度で求めることができる。これを背景地図に活用して正確な観光マップを作成することができる。

● 容易に広域の地図データを入手できる

十勝管内は、19市町村で構成されているため、通常、19市町村の地図データを収集しなければならないところ、基盤地図情報はひとつのWebサイトから全てのデータを入手することができる。

一般に観光マップはわかりやすさを目的として作成されるため、実際の距離や地形とは異なるデフォルメしたイラスト地図を作成することが多い。十勝観光連盟では、北海道外から訪れた方に対して、北海道十勝のスケールの大きさを直感的にわかっていただこうと、「とかちであそぶ観光マップ」を作成する際に、イラストではなく、正しい縮尺、地形をもつ基盤地図情報を背景地図として活用した。こうして完成した「とかちであそぶ観光マップ」は、スケールバーと実際の正しい地図を見ることで、その広さがよくわかるばかりではなく、自動車で移動する場合に、どのくらい移動時間がかかりそうなのかを容易に推測することもできる。

「とかちであそぶ観光マップ」は、年間4万部発行され

ており、十勝管内の観光案内所、自治体の観光協会、観光施設、観光事業者（ホテル、道の駅など）などに置かれている。インターネットでも公開しており、次のURLからダウンロードできる。

<http://www.tokachibare.jp/info/pamphlet/>

この観光マップの主な利用者は、自家用車等で移動する方で、A2サイズを四つ折りにしたA4サイズとして印刷していること、標高の配色や注記にも見やすさを工夫したため、利用しやすいとの声が多い。

■利用した基盤地図情報の種類と項目

【縮尺レベル25000基盤地図情報】

- ・行政区画の境界線及び代表点
- ・海岸線
- ・道路線
- ・市町村の町若しくは字の境界線及び代表点
- ・標高点

とかちであそぶ観光マップ（表 全図）



各イメージ図：十勝観光連盟提供

正しい縮尺の背景地図により広さが直感的にわかる工夫が施されている

2 とかちであそぶ観光マップ（部分拡大）



左上のスケールバーと地図を比較することで、おおよその距離感と移動時間がつかめる

登山やハイキングのサポート情報 として地形を把握しやすい 立体地図への利用

デジタル・アース・
テクノロジー株式会社

基盤地図情報数値標高モデル(DEM)10mメッシュ(標高)は全国土の標高データを記録したものであり、地図の立体的な表示や、洪水による浸水予測等の解析に利用できる。デジタル・アース・テクノロジー株式会社では、基盤地図情報数値標高モデル(DEM)10mメッシュ(標高)を使用して、立体的な地形を視覚的に捉えることができるスカイビュースケープ「山っぷ」を商品化している。

利用効果

- 尾根や谷などの地形を視覚的に捉えることができる
- 基盤地図情報を使えば高品質な商品を安価に提供することができる

10mメッシュ(標高)の詳細な標高データを利用することにより、尾根や谷などの地形を視覚的に捉えることができる立体表現が可能となる。

10mメッシュ(標高)という高密度かつ高精度な標高データを無償で利用でき、視認性が良い魅力的な商品を提供することが可能となる。

スカイビュースケープ「山っぷ」(商標登録第5278733号)は、アジア航測(株)からの特許第3670274号・第4272146号(通称、「赤色立体地図」作成プログラム)の実施許諾を得て、国土地理院の基盤地図情報数値標高モデル(DEM)10mメッシュ(標高)を加工した画像に同院刊行の2万5千分の1地形図を重ね合わせて、デジタル・アース・テクノロジー(株)が作成したものである。

登山やハイキングでは、地形図と周囲の地形とを対比することで自分がいる場所を確認したり、これから進むべき登山道の位置を確認する必要がある。しかし、登山道は目標物が少ないため位置の確認が難しく、地形図の等高線から地形を読み取ることも初心者には困難である。

スカイビュースケープ「山っぷ」は、基盤地図情報数値標高モデル(DEM)10mメッシュ(標高)から作成した立体地図であり、等高線だけの表現より地形を視覚的に捉えることができるので、初心者でも直感的に地形を把握することが容易である。

「山っぷ」は、日本二百名山をリリースしており、画像を配信する同社のASPサービス「スカイビュースケープ」にて配信している。また、財団法人日本地図センターの「JMCネットショッピング」、三菱スペース・ソフトウェア株式会社の「GeoMola.jp」で販売している。山岳地図をはじめ、山岳レスキュー、研究、教育、ナビ、ゲーム、報道に至るあらゆる分野で利用ができる。

なお、基盤地図情報メッシュ標高データは、この事例で紹介されている10mメッシュ(標高)の他に、都市部(都市計画区域の線引き区域)を対象として、基盤地図情報数値標高モデル(DEM)5mメッシュ(標高)も整備されている。いずれも基盤地図情報サイトから提供されているビューアを使い、陰影段彩図を表示することができる。

■ 利用した基盤地図情報の種類と項目

【数値標高モデル10mメッシュ(標高)】

1 スカイビュースケープ「山っぷ」



2 2万5千分1地形図では・・・



基盤地図情報ビューア(無償)による陰影段彩図

